

Change and Innovation

経営戦略説明会

2015年5月26日

 SUMITOMO CHEMICAL
社長 十倉 雅和


ANNIVERSARY
SINCE 1915



目次

- 2014年度および2015年度の業績動向
- 2013～2015年度 中期経営計画の総括
- 主要プロジェクトの進捗
- 持続的な成長に向けて

2014年度および2015年度の業績動向



(単位: 億円)

	2013年度 実績	2014年度 実績	前年比
売上高	22,438	23,767	+1,329
営業利益	1,008	1,273	+265
(持分法損益)	120	239	+119
経常利益	1,111	1,574	+463
純利益	370	522	+152
ROE	6.5%	7.3%	
ナフサ価格	¥67,300/kl	¥63,500/kl	
為替レート	¥100.17/\$	¥109.76/\$	

2014年度セグメント別営業利益

Change and Innovation

(単位: 億円)

	2013年度	2014年度	前年比
スペシヤリティケミカル	1,202	1,183	-18
情報電子化学	349	324	-25
健康・農業関連事業	382	569	+187
医薬品	471	290	-181
バルクケミカル	-59	208	+267
基礎化学	-109	-4	+105
石油化学	49	212	+163
その他	-134	-118	+16
合計	1,008	1,273	+265

(単位: 億円)

	2014年度 実績	2015年度 予想	前年比
売上高	23,767	22,500	-1,267
営業利益	1,273	1,450	+177
(持分法損益)	239	240	+1
経常利益	1,574	1,600	+26
純利益	522	800	+278
ROE	7.3%	10.0%	
ナフサ価格	¥63,500/kl	¥47,000/kl	
為替レート	¥109.76/\$	¥115.00/\$	

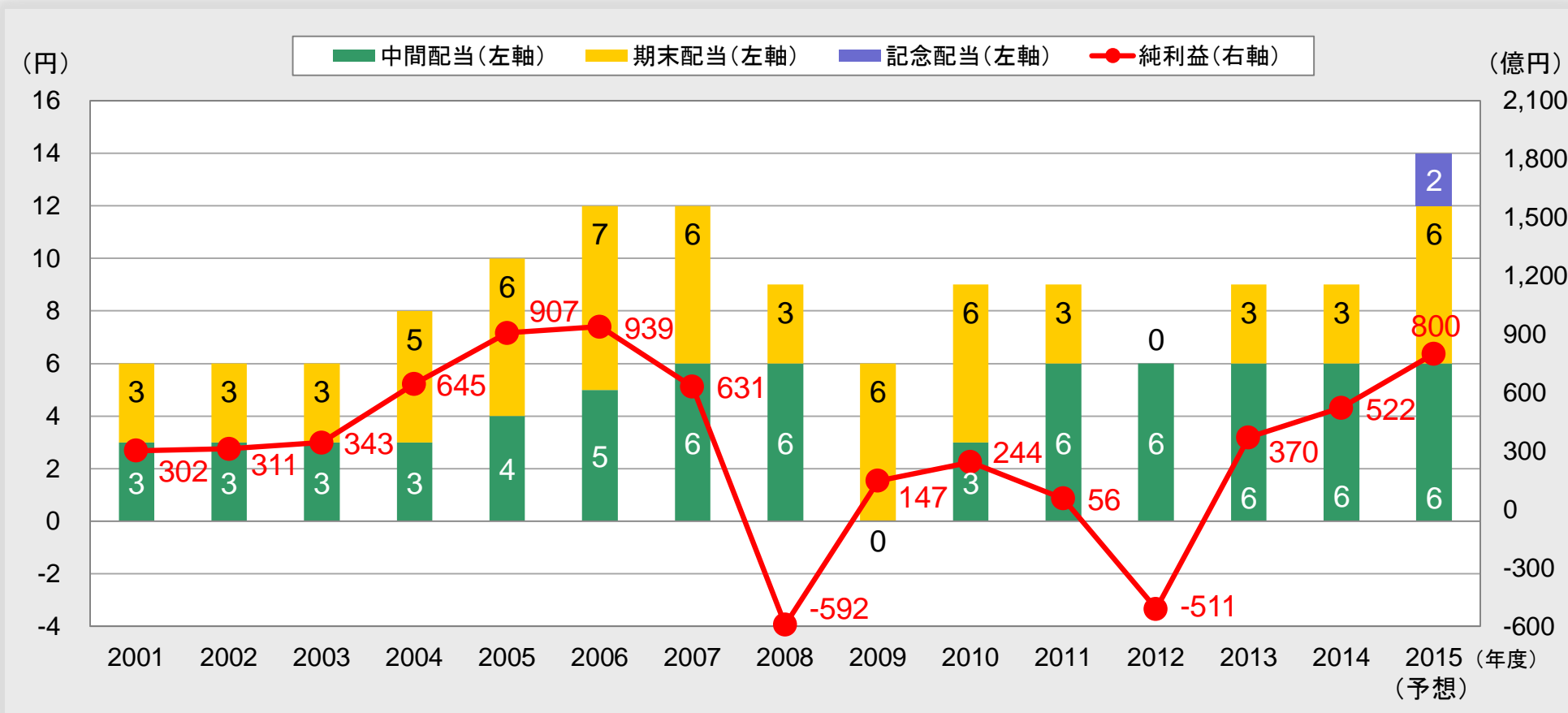
2015年度業績予想:セグメント別営業利益予想

Change and Innovation

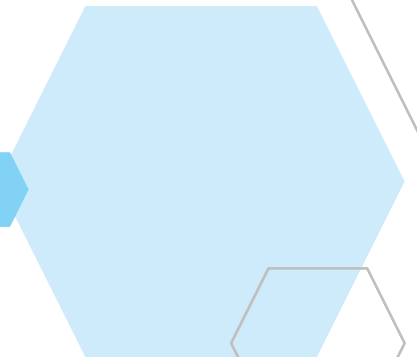
(単位:億円)

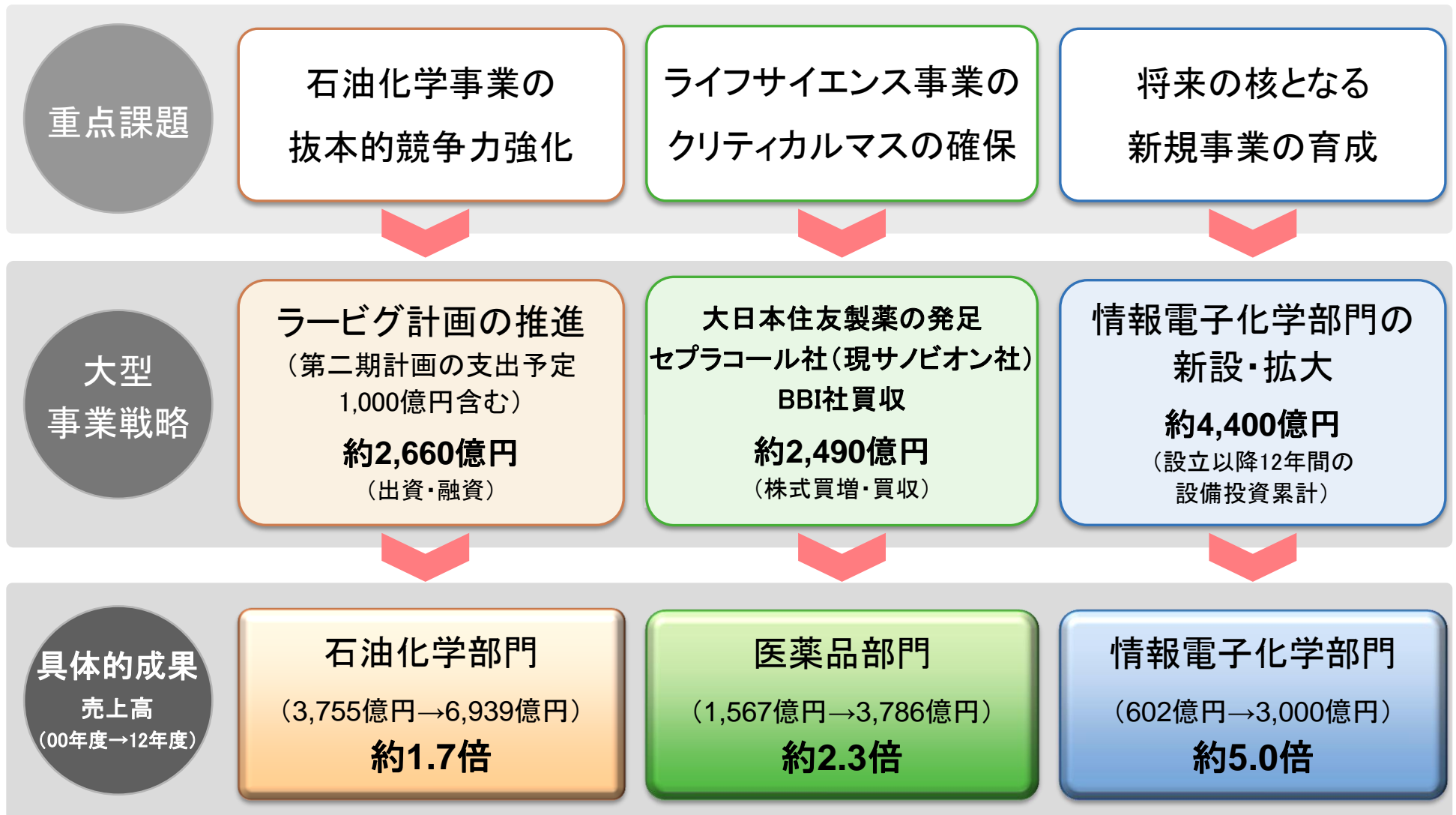
	2014年度 実績	2015年度 予想	前年比
スペシヤリティケミカル	1,183	1,400	+217
エネルギー・機能材料	8	40	+32
情報電子化学	324	410	+86
健康・農業関連事業	561	630	+69
医薬品	290	320	+30
バルクケミカル	208	170	-38
石油化学	208	170	-38
その他	-118	-120	-2
合計	1,273	1,450	+177

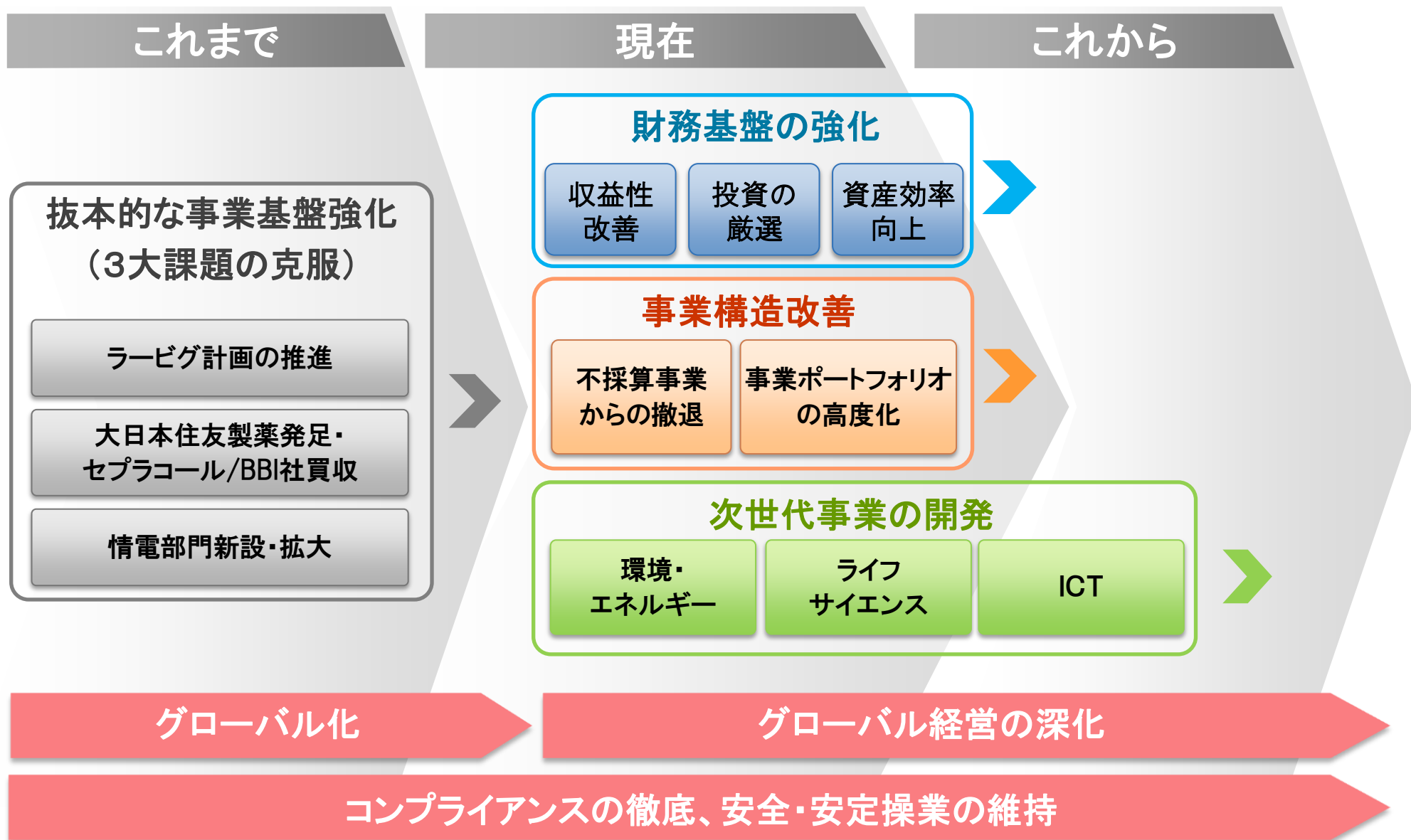
当社は、剰余金の配当の決定にあたり、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の業績、配当性向ならびに以後の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本としております。



2013～2015年度 中期経営計画の総括







情報電子化学

- ✓ モバイル用偏光フィルム生産能力拡大
- ✓ 次世代偏光フィルムの量産開始
- ✓ 保護膜代替偏光フィルム採用拡大

- ✓ **オンセル型タッチセンサー
生産能力増強**
- ✓ フィルム型タッチセンサー上市

- ✓ **アラミドセパレータ生産能力拡大**

健康・農業関連事業

- ✓ ニューファーム社とのシナジー拡大
- ✓ モンサント社とのアライアンス期間延長
ブラジル・アルゼンチンへの地域拡大
- ✓ フルミオキサジンの生産能力拡大

- ✓ 種子処理事業の拡大
- ✓ ポストハーベスト事業の拡大
- ✓ **バイオラショナルの新工場稼働**

- ✓ **コメの種子事業買収・
コメのTSP事業参入**

- ✓ **新規化合物の開発加速**

医薬品

✓ 非定型抗精神病薬ラツーダが北米で双極Ⅰ型障害うつに対する適応追加承認取得

✓ ラツーダの米国での販売拡大

✓ 抗てんかん剤アプティオムを米国で上市

✓ **がん幹細胞標的薬(BBI608/503)開発**

✓ 再生・細胞医薬分野の開発進展

✓ 北米事業の事業構造改善

バルクケミカル

✓ **カプロラクタム液相法プラント生産停止決定**

✓ 国内P-MMAプラント生産停止

✓ **千葉工場エチレンプラント生産停止**

✓ PO/SM併産プラント生産停止

✓ 親会社とペトロ・ラービグの各種取引条件の見直し

✓ ラービグ第一期計画の高稼働・安定操業の実現

✓ **第二期計画PF契約締結・順次稼働予定**

✓ DPF受注

✓ 高純度アルミナ生産能力拡大・拡販

✓ S-SBR生産能力増強

(単位: 億円)

	2015年度 中期経営計画	2015年度 予想	差異
売上高	24,000	22,500	-1,500
営業利益	1,400	1,450	+50
(持分法損益)	250	240	-10
経常利益	1,500	1,600	+100
純利益	900	800	-100
ナフサ価格	¥60,000/kl	¥47,000/kl	
為替レート	¥80.00/\$	¥115.00/\$	

2015年度セグメント別営業利益予想

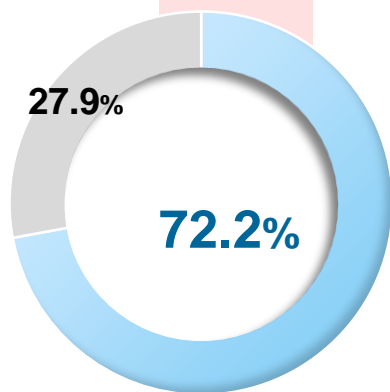
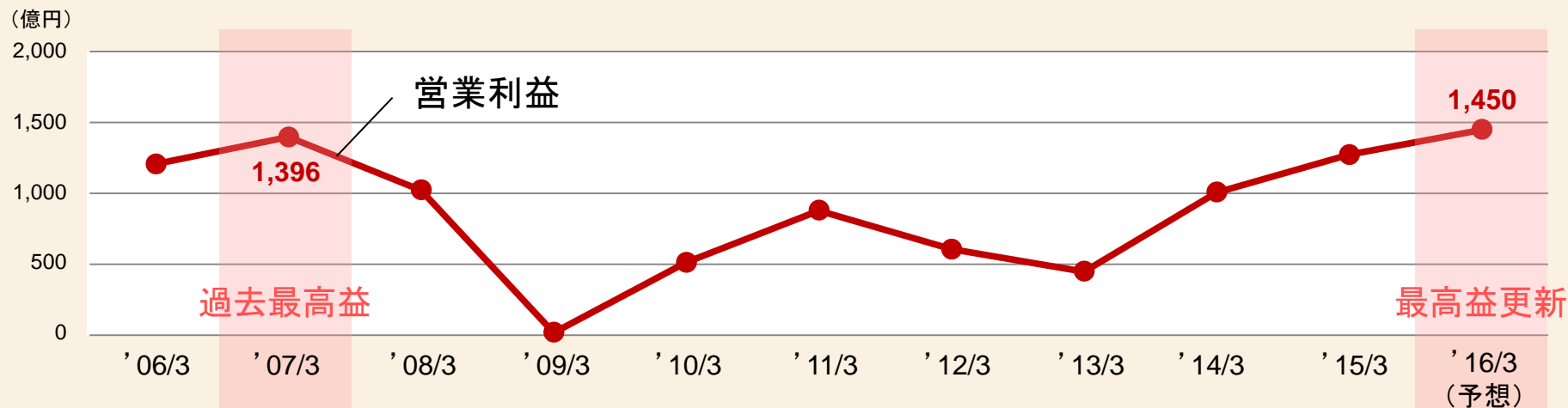
Change and Innovation

(単位:億円)

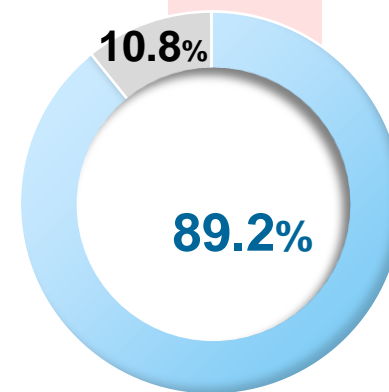
	2015年度 中期経営計画※	2015年度 予想	差異
スペシャリティケミカル	1,290	1,400	+110
エネルギー・機能材料	150	40	-110
情報電子化学	340	410	+70
健康・農業関連事業	450	630	+180
医薬品	350	320	-30
バルクケミカル	240	170	-70
石油化学	240	170	-70
その他	-130	-120	+10
合計	1,400	1,450	+50

※新セグメント組換後

営業利益と構成比の推移

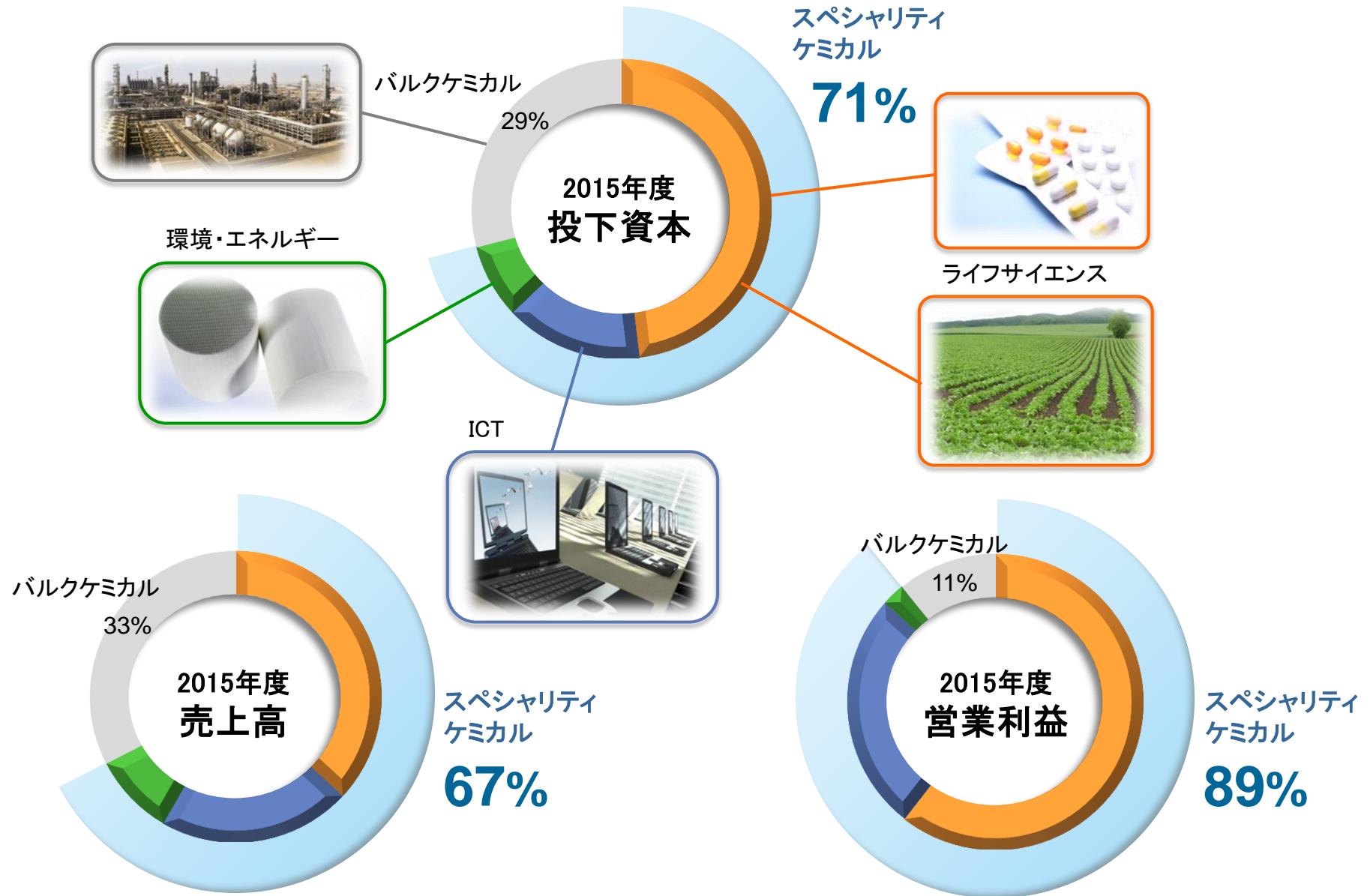


	'07/3		'16/3
スペシャリティケミカル	72.2%	➔	89.2%
バルクケミカル	27.9%	➔	10.8%



(注) その他部門・消去を除く営業利益の構成比

スペシャリティケミカル領域の収益力が大幅に拡大





攻めの経営・戦略の自由度確保

(単位: 億円)

	2010～2012年度 (実績)	2013～2015年度 (中期経営計画)	2013～2015年度 (予想)	2015年度 (予想)
営業 キャッシュ・フロー	4,723	5,400程度	7,152	2,600
投資 キャッシュ・フロー	▲4,457	▲4,000以内 ^{※1}	▲3,018	▲1,100
フリー キャッシュ・フロー	266	2,000以上 ^{※2}	4,134	1,500

※1. ラービグ第二期計画への出資金1,000億円を含む

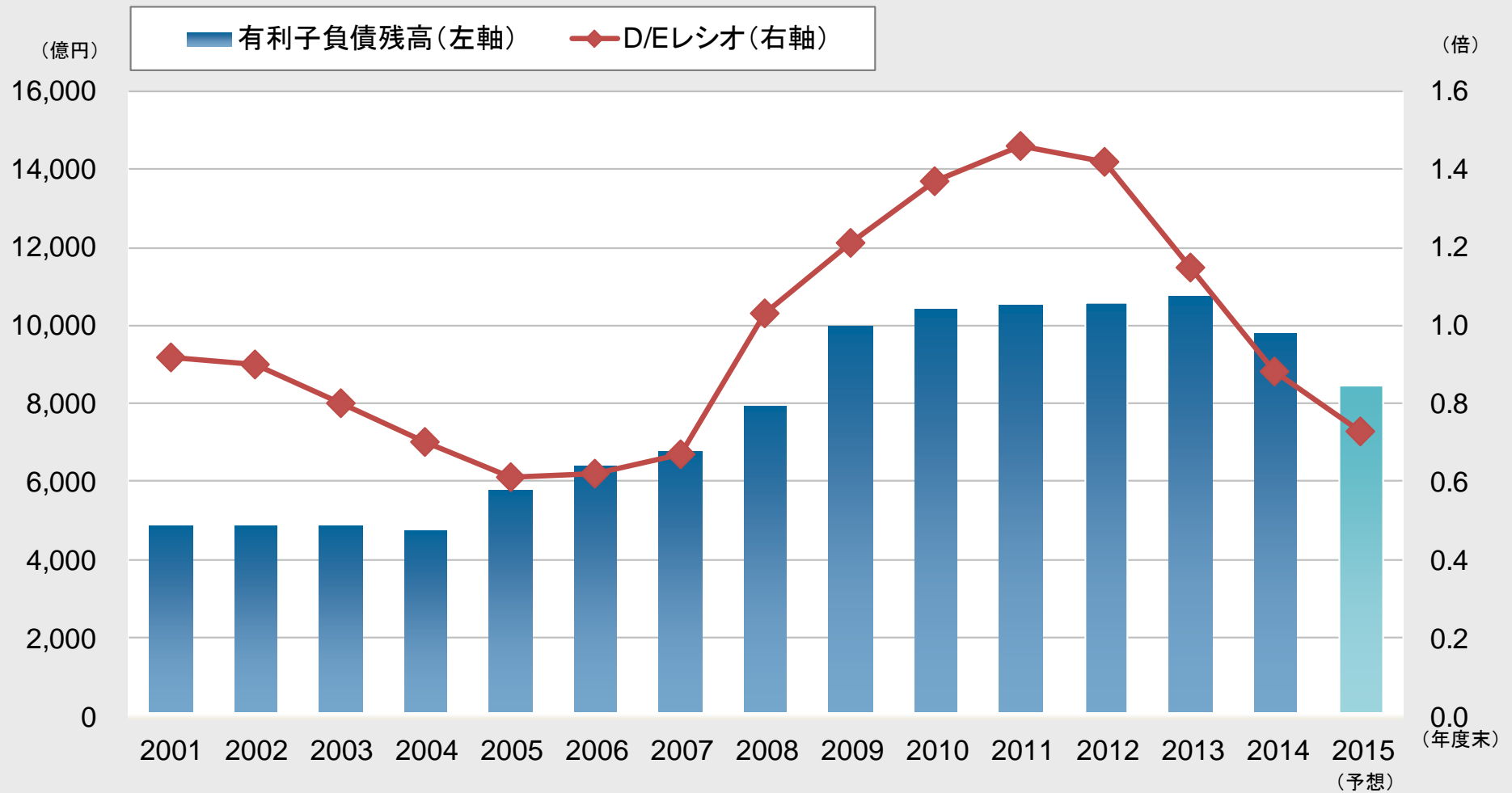
2. 現預金等の減少を含む

(単位: 億円)

	2012年度末 (実績)	2015年度末 (中期経営計画)	2015年度末 (予想)	2014年度末 (実績)
有利子負債残高	10,606	9,000未満 ^{※1}	8,500	9,802

※1. ラービグ第二期計画への出資金1,000億円支出後

有利子負債とD/Eレシオの推移



主要プロジェクトの進捗

- 情報電子化学:フレキシブルディスプレイ材料・部材の事業化
- 健康・農業関連事業:農薬の事業領域の拡大
- 医薬品:再生医療への取組
- 石油化学:ペトロ・ラービグの拡張
- ニッチ分野での事業展開

フレキシブルディスプレイパネルプロジェクト

有機・無機ハイブリッド技術など
総合化学メーカーとしての素材開発力

+

リジットディスプレイ材料事業で培った
製品開発力・加工技術

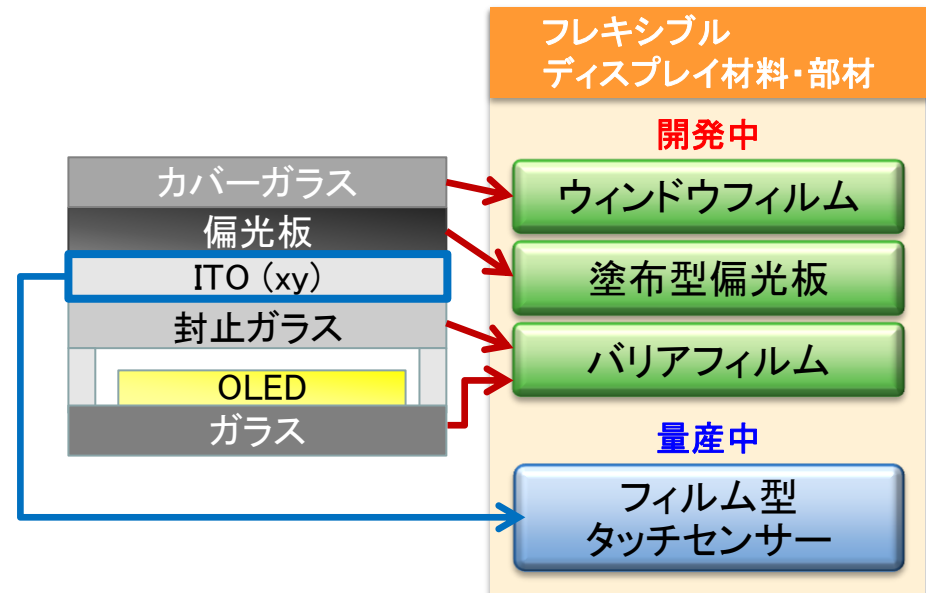
次世代ディスプレイの実現に貢献

フィルム型タッチセンサー

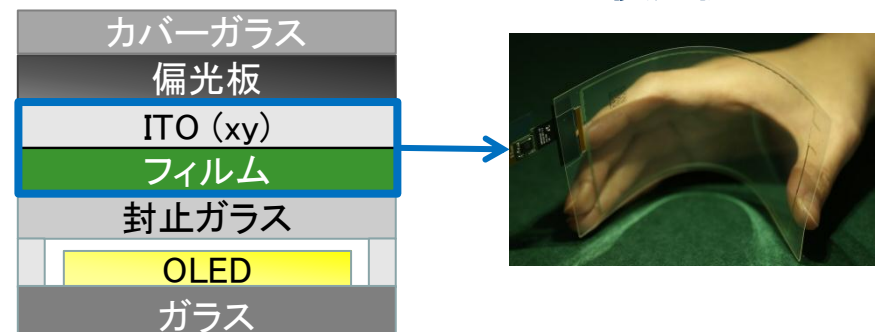
- ・2015年2月に上市、量産中
- ・有機ELディスプレイの曲面化に貢献

フレキシブルディスプレイ実現の第一歩に

現在の有機ELディスプレイの構造(例)



フィルム型タッチセンサーの使用例



事業領域の拡大



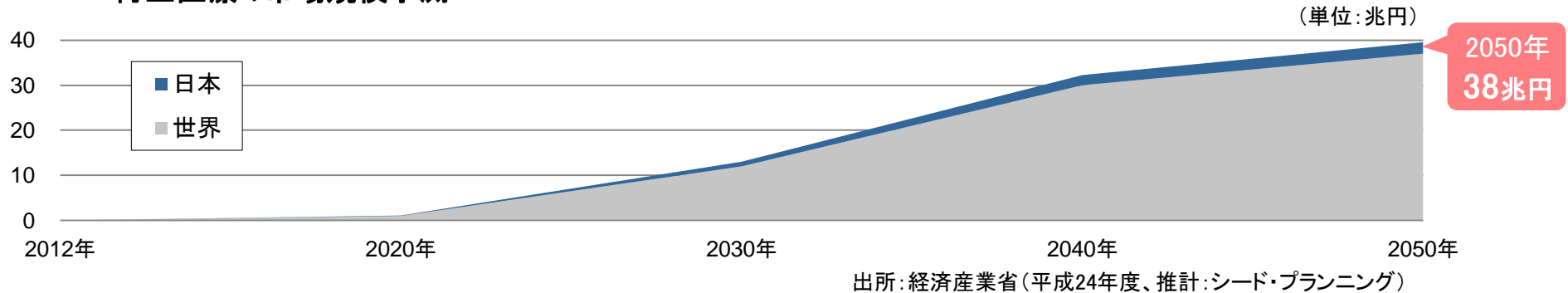
種子	化学農薬	化学農薬	製品
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリ ・ナタネ ・ソルガム 	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫・殺菌剤 	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫・殺菌・除草剤 	<ul style="list-style-type: none"> ・殺菌剤 ・鮮度保持剤 ・コーティング剤 ・植物成長調整剤
<ul style="list-style-type: none"> ・コメ 	製剤・施用技術 <ul style="list-style-type: none"> ・種子処理用殺虫剤 ・種子処理用植物成長調整剤 ・種子処理技術 	バイオリショナル <ul style="list-style-type: none"> ・微生物農薬 ・植物成長調整剤 	
		肥料 <ul style="list-style-type: none"> ・コート肥料 	サービス <ul style="list-style-type: none"> ・ポストハーベスト処理 ・出荷前処理 ・残留分析
		製剤技術 <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロカプセル 	

 拡大分野の製品

拡大分野の事業規模



再生医療の市場規模予測



再生医療・細胞医薬分野での取組

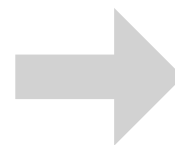
	連携先	地域	細胞腫	実用化に向けたスケジュール					
				2015	2016	2017	2018	2019	2020
慢性期脳梗塞	サンバイオ	北米	他家間葉系幹細胞	Ph2b					承認目標
加齢黄斑変性	ヘリオス理化学研究所	国内	他家iPS細胞	臨床研究(自家/他家)			医師主導治験		承認目標
パーキンソン病	京都大学iPS細胞研究所(CiRA)	global	他家iPS細胞	臨床研究(自家)			医師主導/企業治験		
網膜色素変性	理化学研究所	global	他家iPS細胞				医師主導治験		
脊髄損傷	慶應義塾大学大阪医療センター	global	他家iPS細胞				臨床研究(他家)		

1. ラービグ第二期計画

(1) 資金調達の概要

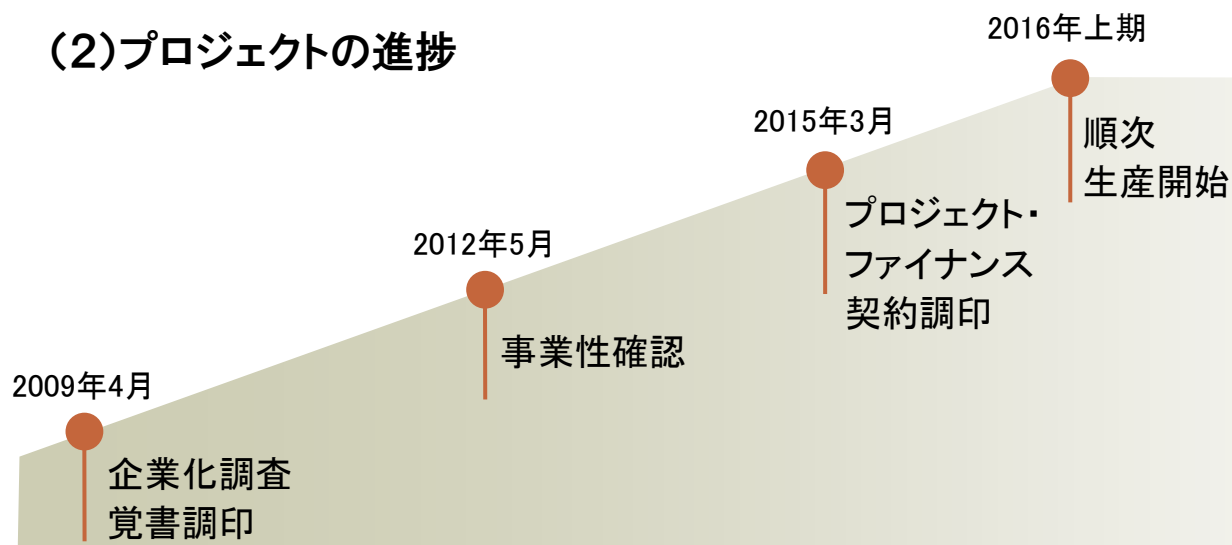
(単位：億ドル)

	調達	備考
借入	52	プロジェクトファイナンス
資本等	29	ブリッジローン等
合計	81	

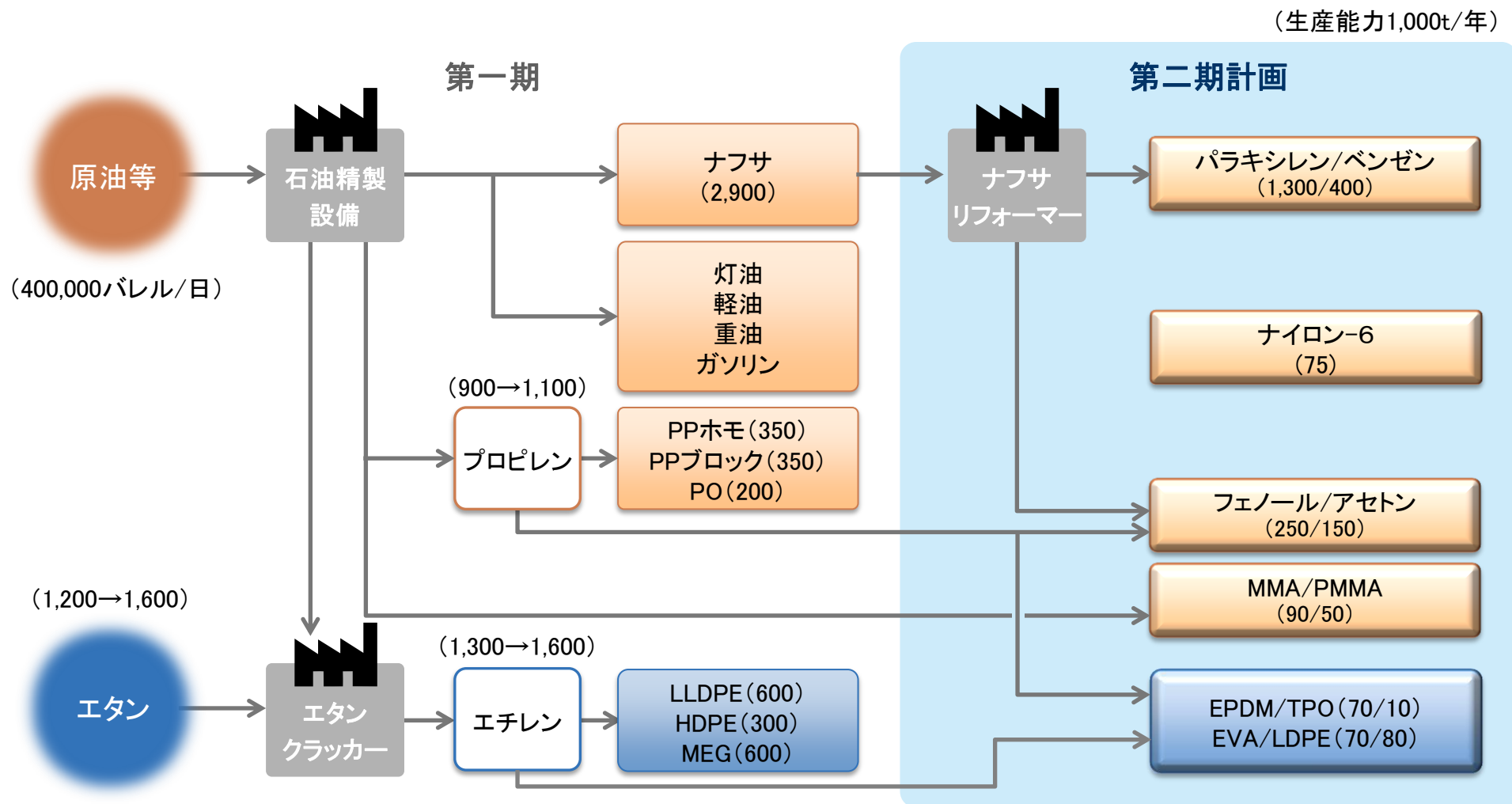


当社出資予定：1,000億円
(フリーキャッシュ・フロー、
借入で調達予定)

(2) プロジェクトの進捗



2. ペトロ・ラービグ コンプレックス



アクリル酸、SAP、ポリオールへの投資は検討中

1. 住友共同電力

会社概要

売上高:約480億円^{*1} 設立:1919年 従業員:約180名^{*2}

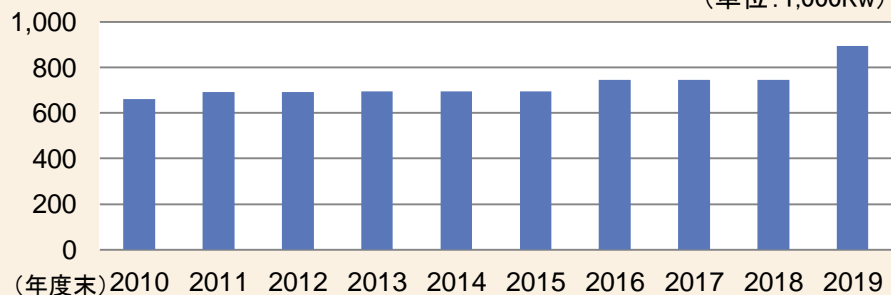
*1:2014年度 *2:2014年度末

事業概要

- ◆ 発電所の運営(火力3、水力12、バイオマス1)
- ◆ 住友グループ企業、四国電力、日本卸電力などに販売
- ◆ 発電所増設(グループ外への電力供給増)

発電能力の推移

(単位:1,000Kw)



川崎バイオマス発電所稼働

紋別バイオマス発電所稼働

新居浜北火力発電所稼働(検討中)

2. 日本メジフィジクス

会社概要

売上高:約320億円^{*1} 設立:1973年 従業員:約800名^{*2}

*1:2014年度 *2:2014年度末

事業概要

- ◆ 核医学の国内リーディングカンパニー(放射性医薬品中心)
- ◆ SPECT検査・PET検査用診断薬、がん治療用密封線源などの販売
- ◆ PET診断薬の適用拡大に注力(新たな疾患の診断)

新製品(2014年上市)

¹²³I-イオフルパン (ダットスキャン静注)

- ◆ パーキンソン病、レビー小体型認知症のSPECT検査薬

開発パイプライン

¹⁸F-フルテメタモル

- ◆ アルツハイマー病のPET診断薬として開発中

¹⁸F-フルシクロビン

- ◆ 脳腫瘍・前立腺がんのPET診断薬として開発中

3. ベーラントバイオサイエンス

会社概要

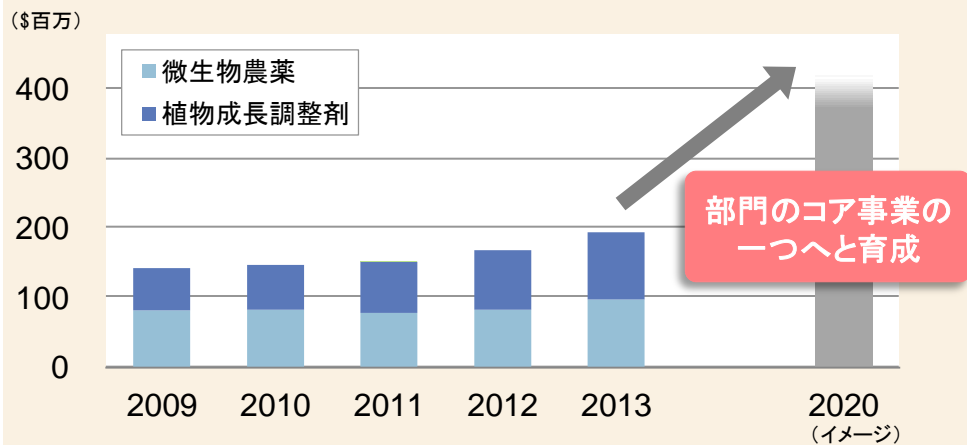
売上高: 約280百万ドル^{*1} 設立: 2000年 従業員数: 約180名^{*2}

*1: 2014年度 *2: 2014年度末

事業概要

- ◆ バイオリショナル農薬の世界のリーディングカンパニー
- ◆ 新工場を稼働(2014年7月)
- ◆ 菌根菌事業を買収(2015年3月)
- ◆ 化学農薬とのシナジーを追求

バイオリショナル事業の売上推移



4. サイオクス

会社概要

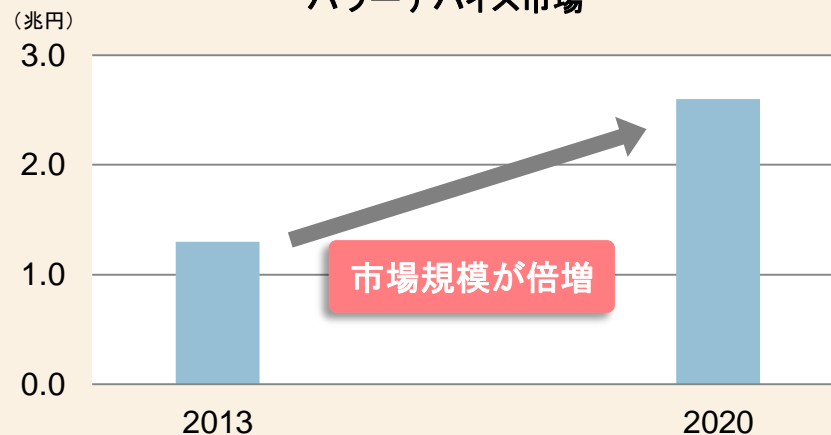
売上高: 約60億円^{*1} 設立年: 2015年 従業員数: 約160名^{*2}

*1: 2015年度予想 *2: 2015年4月末

事業概要

- ◆ 日立金属の化合物半導体材料事業を買収・設立(2015年4月)
 - ・ガリウムヒ素エピウエハでのシェア拡大
 - ・窒化ガリウム基板・エピウエハに参入(パワーデバイス用途)
- ◆ 化合物半導体のリーディングカンパニーへ

パワーデバイス市場



持続的な成長に向けて

- 開業100周年を迎えて
- 今後の重点事業領域
- ガバナンス強化と持続的な成長に向けた取り組み



持続的な成長に向けて

- **開業100周年を迎えて**
- 今後の重点事業領域
- ガバナンス強化と持続的な成長に向けた取り組み

住友の事業精神

「営業の要旨」

第1条

わが住友の営業は信用を重んじ確実を旨とし、
もってその鞏固隆盛を期すべし。

第2条

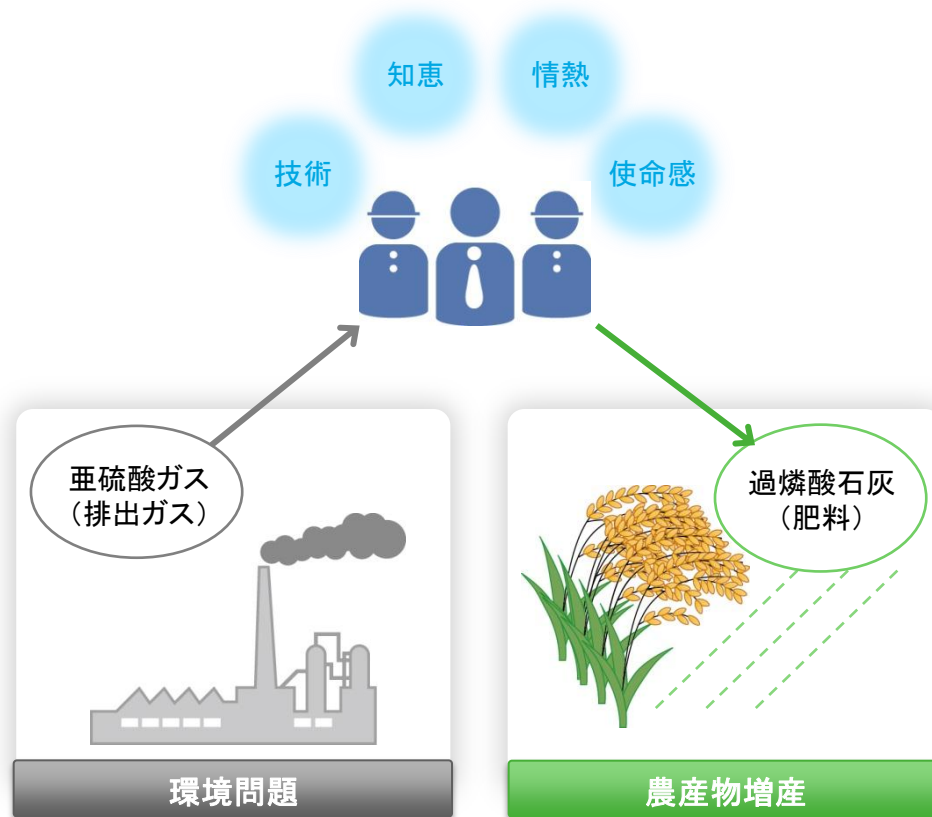
わが住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り、
弛張興廢することあるべしといえども、
いやしくも浮利にはしり軽進すべからず。

自利利他 公私一如
(じりりた こうしいちによ)

事業は自ら利益を得るものであるとともに、
社会に対しても利益あるものでなければならない

住友化学の始まり

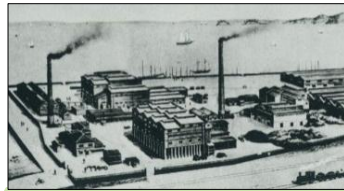
1913年、銅の製錬の際に生じる有害な排出ガスから有益な肥料を製造し、煙害問題の解決に取組み環境問題の克服と農産物の増産をともにはかることから誕生しました。



これまでの100年：事業領域拡大の時代

1915年

営業開始



住友肥料製造

1944年

日本染料製造合併



日本染料製造 春日出工場

1953年

家庭用殺虫剤
「ピナミン」発売



ピナミン工場(西島)

1958年

エチレン工場完成



エチレン工場(愛媛)

1984年

住友製薬設立

農業化学事業に進出



医薬品事業に進出



石油化学事業に進出



2001年

情報電子化学部門設立

情報電子化学事業に進出



社会の変化・顧客の要望に応え事業領域を拡大

これまでの100年：海外進出とグローバル化の時代

Change and Innovation

2009年

ペトロ・ラービグ操業開始



1991年

東友半導体薬品
(現東友ファインケム) 設立



1988年

ベラントU.S.A. 設立



1984年

シンガポール石油化学
コンビナート操業開始



2011年

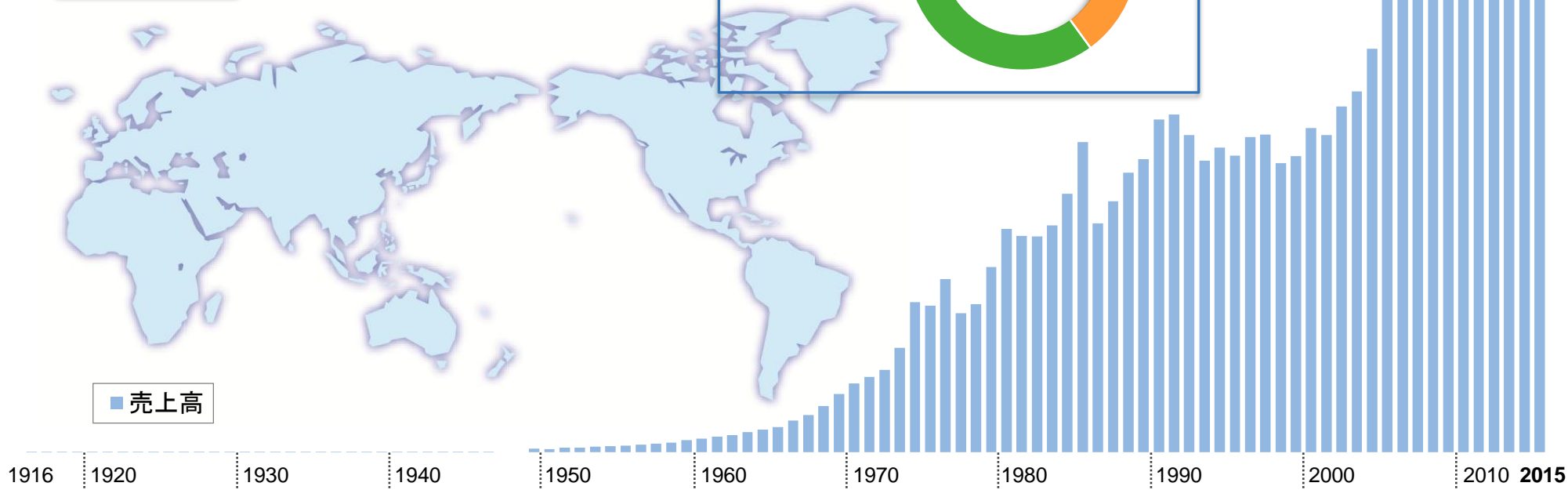
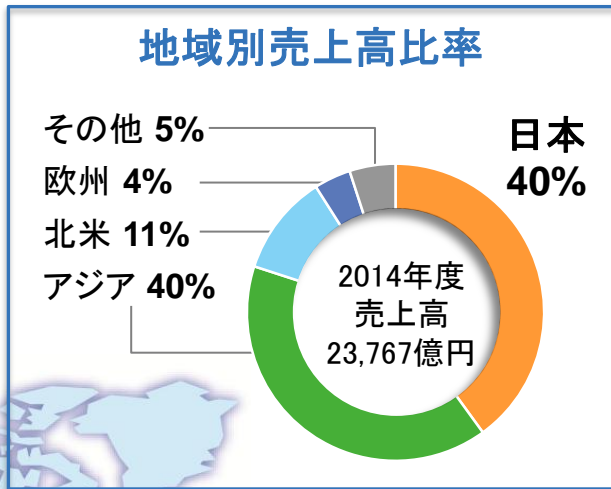
セプラコール
(現サナビオン) 買収



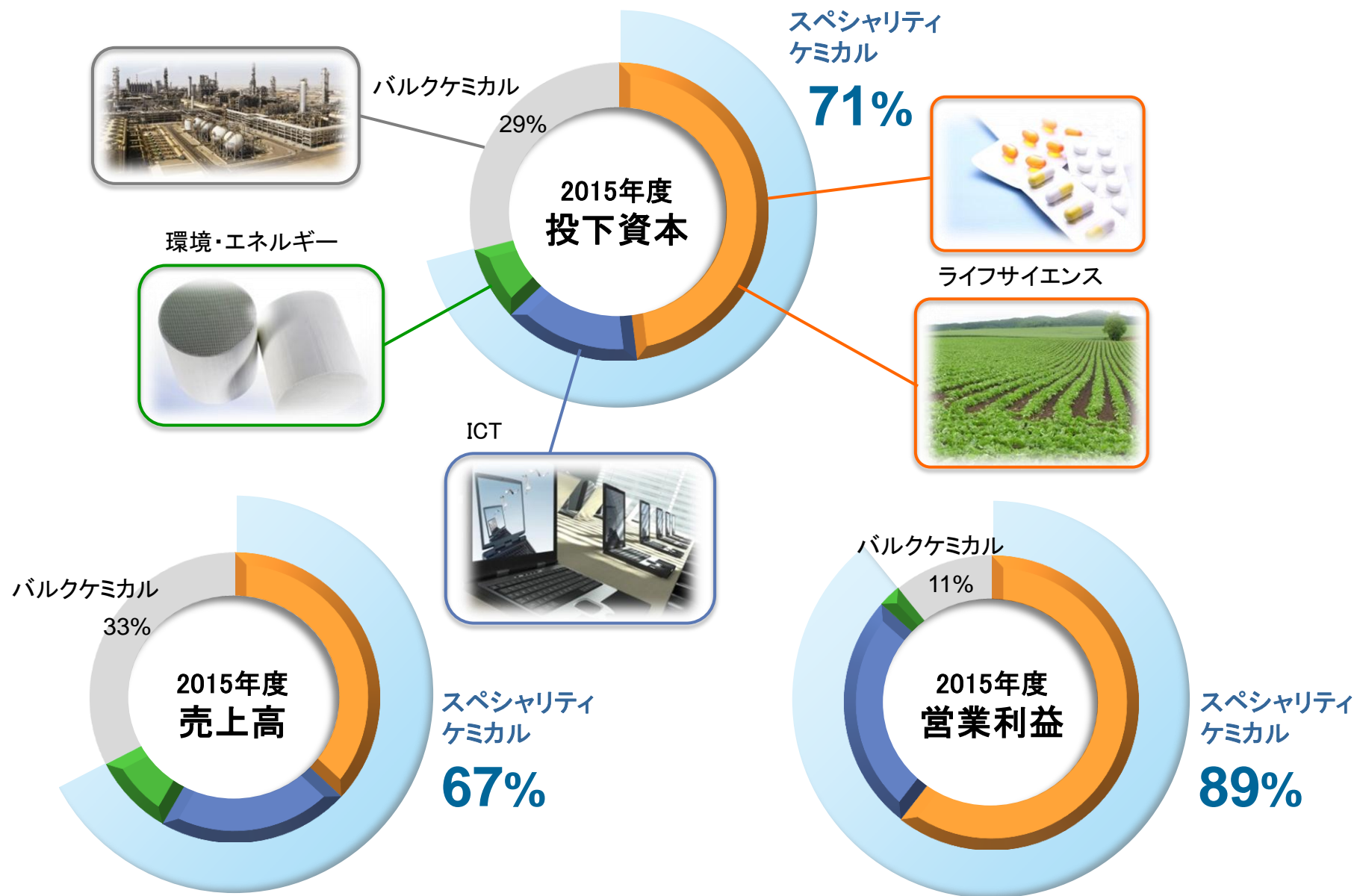
住友化学のグローバル化 = Globally Integrated Management
最適な技術・立地・パートナー・人材でグローバルに競争力のある事業を展開

売上高の推移

売上高	22,500億円 (2015年度予想)
純利益	800億円 (2015年度予想)
総資産	28,804億円 (2015年3月末)
従業員	31,039人 (2015年3月末)



(連単) 1978年度以降: 連結 1977年以前: 単独



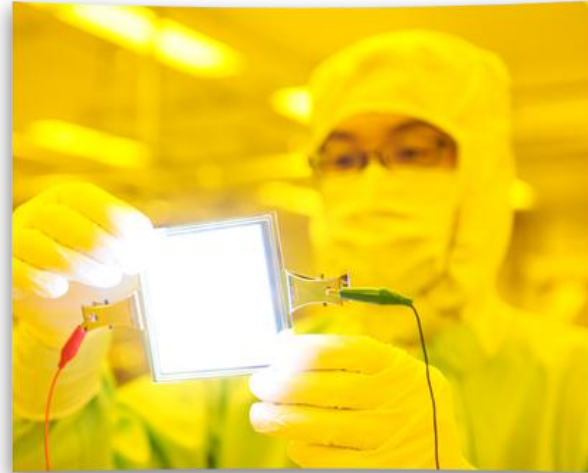
持続的な成長に向けて

- 開業100周年を迎えて
- **今後の重点事業領域**
- ガバナンス強化と持続的な成長に向けた取り組み

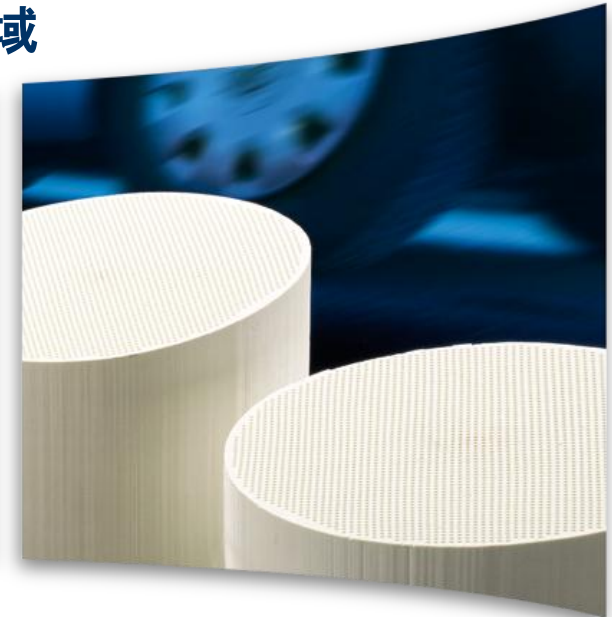
高成長が見込まれる事業領域



ライフサイエンス



ICT



環境・エネルギー

社会価値の創造



経済価値の創造

共通価値の創造 Creating Shared Value

トレンド

- ◆ 人口増加
- ◆ 食糧需要の増大

社会課題・要請

農業の生産性向上が不可欠
(農耕用の適地・淡水の供給に制限)

住友化学グループが提供するソリューション*

*開発中のものを含む

- 化学農薬・バイオリショナル
- クロップストレスマネジメント
- 種子・種子処理
- トータルソリューション*
- ポストハーベスト

*各種農業資材・技術を活用し、農業生産から販売までをトータルに農家に提供

トレンド

◆ 医療技術の発展

社会課題・要請

予防診断・個別医療・再生医療
など新たな医療によるQoL向上

住友化学グループが提供するソリューション*

*開発中のものを含む

- 再生医療・細胞医薬品
- 医療材料
- SPECT・PET用の診断薬
- がんや精神・神経疾患などの治療薬

トレンド

- ◆ 通信技術の発達
- ◆ コンピュータ技術の発達
- ◆ IoT (Internet of Things)の普及

社会課題・要請

IoT (Internet of Things) による利便性・生産性向上

住友化学グループが提供するソリューション*

*開発中のものを含む

- ディスプレイ材料
- 有機EL
- 半導体プロセス材料
- 金属ターゲット
- プリントドエレクトロニクス製品
- 化合物半導体

トレンド

◆ 持続的社会的実現

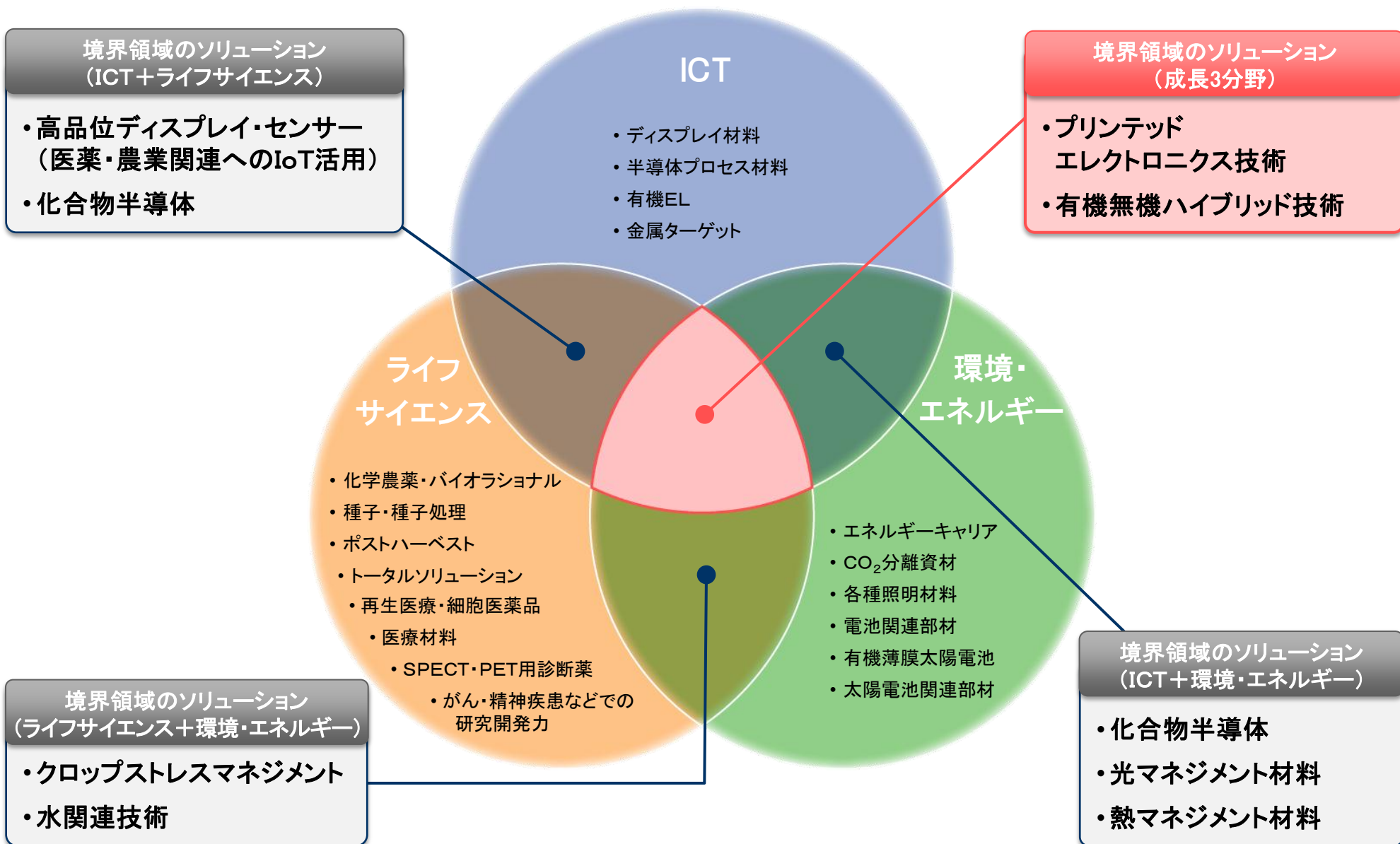
社会課題・要請

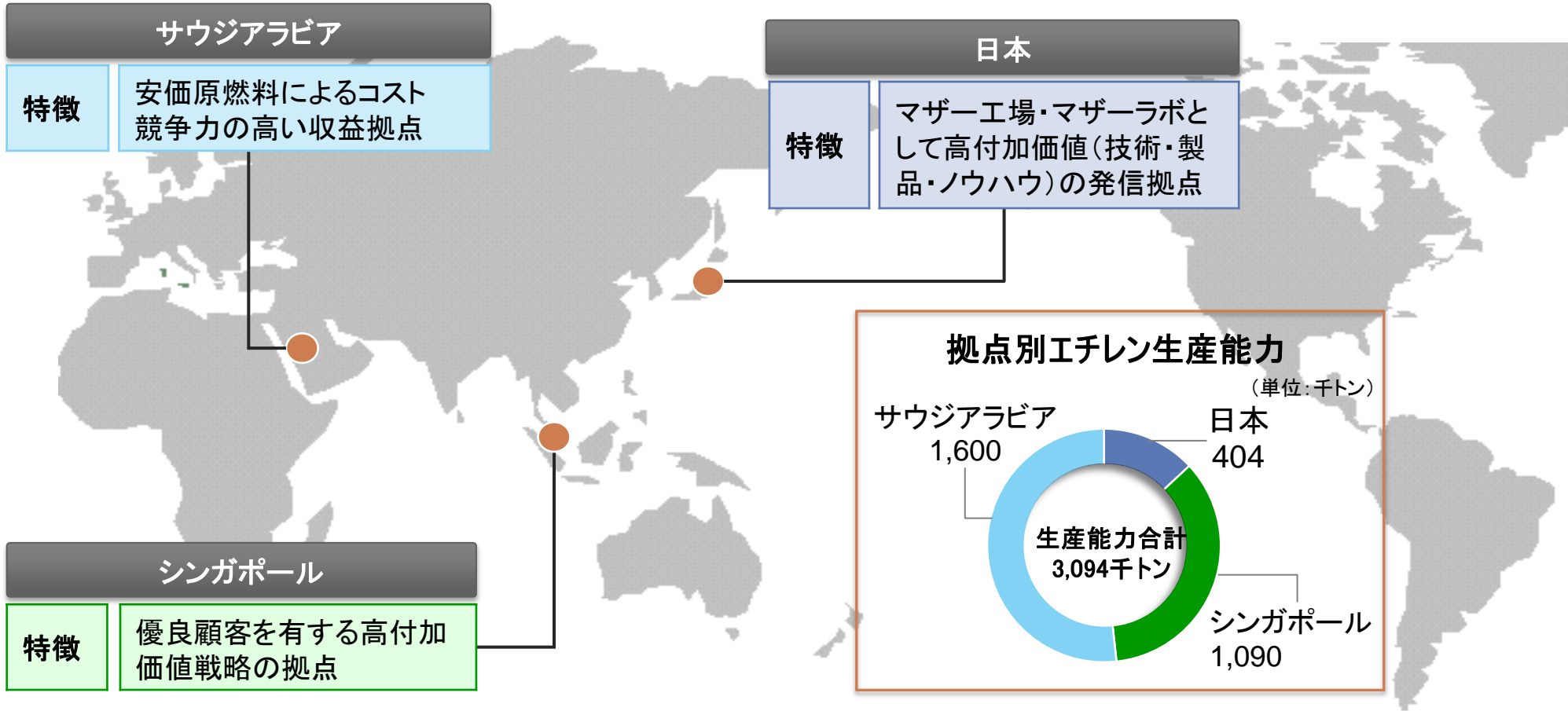
GHG抑制に資する製品・プロセスの開発
省エネ・創エネ・蓄エネに資する材料・技術の開発

住友化学グループが提供するソリューション*

*開発中のものを含む

- エネルギーキャリア技術
- 化合物半導体
- 有機薄膜太陽電池
- 電池関連材料
- CO₂分離資材
- 各種照明材料
- 太陽電池関連部材



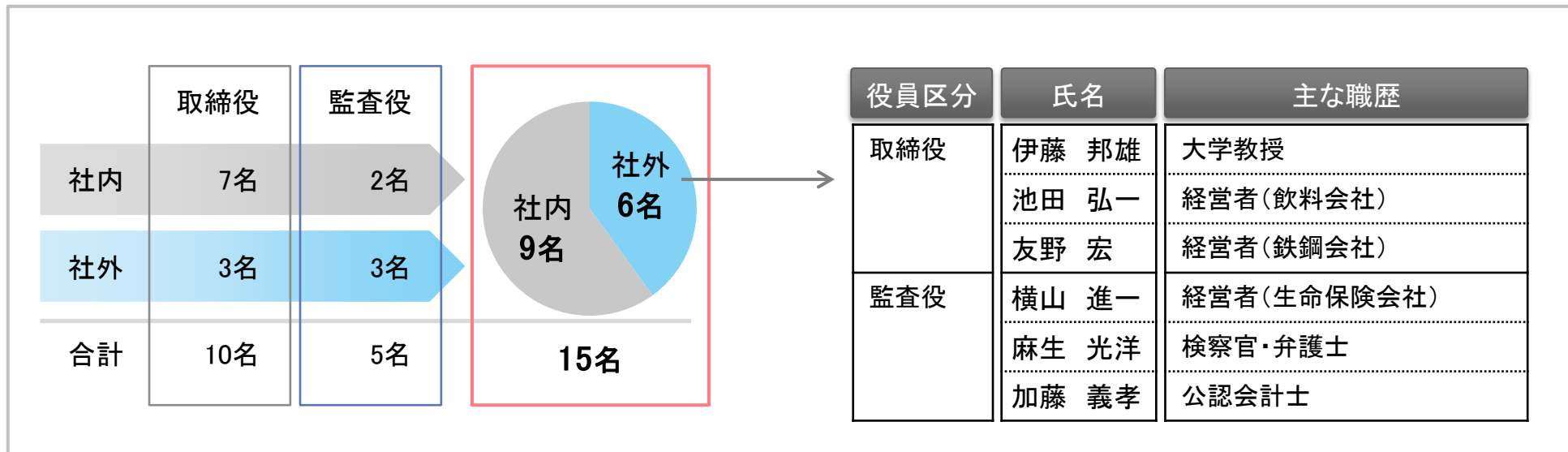


コスト優位の確立と資産効率改善に注力 ➡ 資本コストを上回るROIを目指す

持続的な成長に向けて

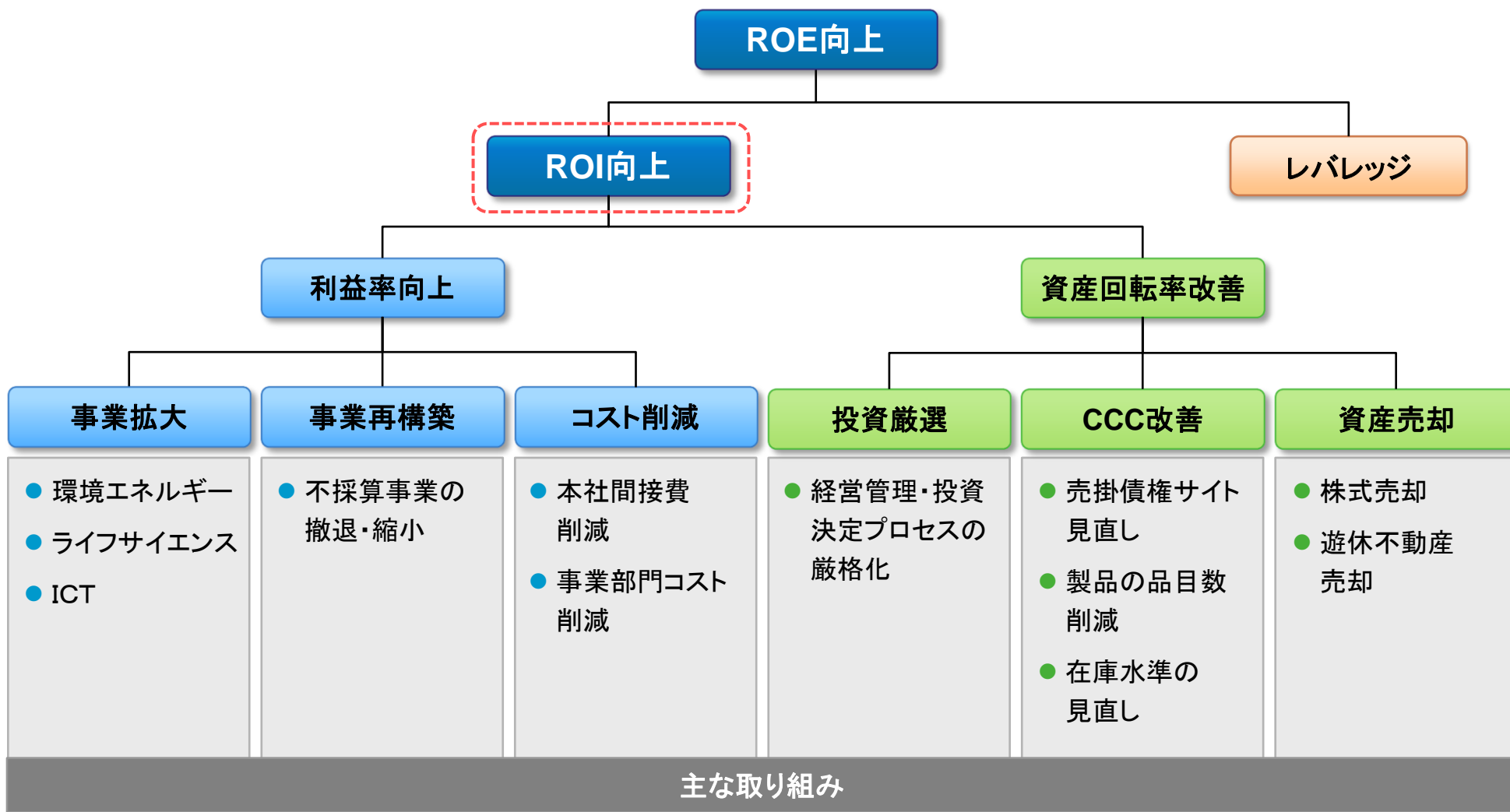
- 開業100周年を迎えて
- 今後の重点事業領域
- **ガバナンス強化と持続的な成長に向けた取り組み**

社外取締役を増員



幅広い分野で活躍する社外役員の見点を活かして取締役会の活性化を図る

ROI・ROE向上に向けた取り組み



迅速・果敢な経営

新たなコア技術・事業の創出

適時・適切な資源配分

グローバル経営の深化



守るべき事業精神の継承

住友の事業精神

経営理念

技術を基盤とした
新しい価値の創造に常に挑戦

事業活動を通じて
人類社会の発展に貢献

活力にあふれ社会から
信頼される企業風土を醸成



人類社会が抱える課題にソリューションを提供
次の100年も社会と共に持続的に発展

Creative Hybrid Chemistry



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。